

校長つうしん No.14



2017.1.19

鈴木 恵一



感動と感謝



◆新年あけましておめでとうございます。

1月4日、秋元札幌市長より年頭の挨拶で『今年の一文字「感」』が発表されました。市民に披露された書は、実は大通高校書道部がご指名を受け、部員が一丸となって筆をふるった渾身の一作です。年始早々、本校生の躍動感あふれる文字を目にし、感動と共に心が引き締まる思いです。



大きな仕事を引き受けてくださった書道部の生徒のみなさんと顧問の先生に改めて感謝いたします。

秋元市長のご挨拶を抜粋すると以下のような意味が込められていることがわかります。

◆直感力、感性、スピード感、市民感覚、感動を体感

市長就任から間もなく3年目。次のステージに“ジャンプ”するために、「直感力」と「感性」を研ぎ澄ませ、今、求められているものは何か、市民のみなさんへ伝えなければならないものは何か、そのことを的確にとらえていかなければならない。任期(4年)の折り返しとなる今年は、これまでの市政を振り返り、襟を正すべきところは正し、軌道修正すべきところは修正しながら、「スピード感」をもって、「市民感覚」を大切に市政運営を進めていきたい。また、今年2月には冬季アジア札幌大会を開催し、スポーツがもたらす「感動」を市民の皆さんとともに「体感」しながら、大会を盛り上げていきたい。そういう思いを込めて、今年の一文字を“感”とした。

さあ、あなたも今年一年、感動体験ができるようないろいろなことにチャレンジしてください！

……ということで、校長自身は何か目標を持たないのか？といわれそうなので、少しだけ書きます。

校長室の入り口に書を掲げています。これは、私がお願いして書道部の相模 紗季さん(2年次)の作品を掲示しています。

書道は、墨の濃淡や擦れ、線の流れ、止め、跳ねを駆使しながら、動や静を表現しています。しかし、書き手は鍛錬を重ねても何もかも自在にコントロールできるわけではなく偶然が生み出す要素もあるはず。だからこそ、書道は奥深く、そして私たちはその躍動感、しなやかさ、たおやかさに心が揺さぶられるのかもしれません。

芸術は純度の高い情熱の現れです。

世の中には、「〇〇パワー」といったスピリチュアル(霊的)なものもあり、時として似非科学にだまされているケースもありますが、私は、生身の人間が内面に秘めているものを紡ぎ出す文芸作品や芸術作品、演奏やパフォーマンスには、純度の高いホンモノの情熱と未知のパワーが宿っていると思っています。

幼少期から少年期前半にかけて極端に内向的だった私を変えてくれたのは、文学の力だと今でも信じています。そんなことを考えているうちに、校長になって以来、校長室に掲示している作品を眺めながら初心に返るようにしています。

すなわち、「戴之(之ヲ戴く)」

常用漢字の「頂く」と表外漢字の「戴く」は、どちらも受ける(もらう)の謙譲語ですが、「戴く」は、目上や格上の人からとても有り難いものをいただく場合に用いるそうです。

4月に校長に着任して以来、生徒のみなさんのひたむきな姿に感動し、元気パワーをもらっています。そして、陰で支えてくださっているPTA(保護者・教職員)をはじめ外部支援者の皆様から、さまざまな見えない力を戴いております。今年も皆様からパワーを頂戴したときにはひたすら感謝し、私自身も生徒のために努力いたします。

